

令和 6 年度 学校評価シート

学校名：紀北支援学校	学校	校長名：柏木 美紀
------------	----	-----------

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）
一人一人の障害・発達・生活の実態を正しくとらえるとともに、教育的ニーズを把握し、すべての子供のもつ発達の可能性を最大限に伸ばし、子供を中心とし、将来を見据えた教育を創造する学校。障害による学習上または生活上の困難を改善・克服し、社会の一員としての自立をめざし、「やさしく明るく たくましく」より豊かに生きていこうとする子供。

学校評価の公表方法
職員には、職員会議にて、職員及び保護者の分析を共有する。保護者には、役員会の中で保護者の結果についての分析を公表し、改善策に関する意見等をいただく。学校運営協議会において、改善点等のご意見をいただく。ホームページにおいて公表する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（ 3月1日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗	進捗状況	今後の改善方策
1	3観点をしっかり押さえた授業改善	3観点の視点が定まらず統一されていない。職員の研修不足であるにも関わらず個別指導計画等の記載が先行している。【C】	教務部中心に、相談窓口を設置し、環境を整える 3観点の見本となる解説書を全職員が周知できるように整える。 外部からの助言者を招き現状把握から分析を行い改善に取り組む	相談窓口には、職員の5割が活用できるよう整える。 教務部が研修を行い、8割の教員が理解できる。 全職員が、3観点の内容を把握し個別指導計画に記入できる。	B B B	相談窓口設置への意識が向けられているのは事実であるが、今年度については、3割にとどまった。 教務部長が自ら学部に出向き研修を実施し、周知を行った。 個別の検証をし、分析に取りかかっているが、進捗が遅く計画、実行は次年度に持ち越している。	令和7年度については、全職員で行う具体的な研修と実施、検証を1年で完結できるよう進める。
2	校内の危機管理を整理し個々に意識改善を行う	怪我やトラブルの根本となる原因への視点とその改善や対応への弱さがある。全職員の8割が危機の意識が低い【D】	アクシデント報告を月1回、研修と検証を実施 外部講師からの研修を受け、個々の意識を高める。 実践例を取り上げ、どう対応するかを様々な部で研修を行う。	学部ごとに検証結果を全体会議で報告する。 研修後、講師、管理職等で研修評価を行い次の課題を洗い出す。 アクシデントを3分の1に減らすことを目標にする。	A A B	毎日職員朝礼の記入欄に報告する、周知することで意識を持つ取組を実施している。 学校代表として部長クラスの研修を実施。校長、外部講師からの具体的事例を出しながら課題を整理した。 実践例を会議等で取り上げ核となる教員が他教員へ周知することでアクシデントを防ぐ意識を高めた。	所帯が大きいため、人員の入れ替わりも多いので、毎年校内危機管理についての研修は実施をするが、研修対象を部長以外の学年主任やブロック長等、メンバーを広げ、学校としての意識を維持する。
3	キャリア教育の充実に向けて実践力を高める。	2年前に作成したキャリアの目標の活用と目的や意図の理解を高め、実践の重要性を知る。【D】	キャリア教育目標と学校生活の繋がりを管理職・担当から発信する。 研究部が主導で授業モデルをつくり、全職員で研修を進める。 校外等の実践の必要性を各学部で話し合い協議する。	学校生活の中で反映されている場面の検証を管理職が行う。 モデル授業に対して求める意見を的確に発案できる。 各学部で目的や重要性の押さえを行い、各学部で実践を試みる。	A A B	授業改善の協議の中で、各場面の紹介や具体的な取組を紹介した。 研究担当者が学校としてチームを組み4授業者を全職員で協議し、1年間の成果を出した 実践が大切であることの周知はできているが、具体的な計画を実行するにあたり時間を要している。	令和7年度も引き続きキャリア教育の視点を入れた授業改善の2年目の取組を展開する。紀北として必ず取り入れるべき授業のポイントの周知(紀北ルール)と、実践が将来にどのように活かされるかを検証、評価を行う。

学校関係者評価（2月4日実施）
・第1回学校運営協議会において、学校経営計画書として、具体的な取組や評価の指標を提示し、本校の重点目標達成に向けた提案を行い周知した。
・本校の課題にそった学校評価、特に運営協議会の方が評価しやすい内容に変更し、助言等を頂きやすい様式に変え提示をした。 協議や学校授業見学に於いて、即時評価ができるよう設定をした。
・人権の視点(挨拶・名前の呼び方・適切な教員からの言葉かけ・教員と児童生徒との距離)等について評価を得た。評価は、90～100%が7割の方であり、昨年取り組んできた成果の現れだと評価があった。
・授業づくり(授業改善)については、教材工夫、個別用の教材提示、教室の環境(不要物の処理、わかりやすい場所、提示)の評価は、90～60%が5割の方であった。
・教員が当たり前と思っていることでも、子どもの視点で参観したときに、混乱、理解出来ない視点がたくさんあったことを指摘された。
何を行うにもまずは教員から実施するという助言を基に、令和7年度については、更に具体化した環境整備、個別最適化に向けた取組実践を計画していく予定である。

4								